

韓国人日本語学習者におけるCALL教材の 授業利用と評価

一 『聴解：日本の生活「僕たちの日常生活」』を中心に一

尹 楨 勛* ・ 安 秉 杰**

(e-mail : y7612@suncheon.ac.kr / anbg@nsu.ac.kr)

目 次

1. 研究の背景と目的
 2. 教材及び授業の概要
 3. 授業利用における調査と結果
 4. 総合的考察
-
-

1. 研究の背景と目的

近年、多様化する日本語学習者のニーズに応じ、様々な研究がなされている中、ITの進歩とメディア活用の重要性とともに、日本語教育におけるコンピュータ利用がより積極的に議論されている。

水町他(2002)では、CALL(Computer Assisted Language Learning : コンピュータ支援による言語学習)の研究において、体系的な指導システムとして開発され、実践され、実証されてきた研究は少ないとし、数年間に渡る実践によってその効果が実証された英語教育の「三ラウンド制の指導理論」(竹蓋, 1997)を優れた指導法であるとし、この理論を日本語教育に応用し、CALL教材の開発及び評価を行った結果、総合的に有効であり、有益であることが明らかになった(水町他, 2003、水町他, 2004、水町他, 2006a、水町他, 2006b)。

* 順天第一大学国際通商科専任講師、** 南ソウル大学校日本語科副教授

尹他(2007a)では、以上の研究を受け継ぎ、アンケート調査を通し(尹 2007)、韓国人日本語学習者のニーズを把握した上、日本語CALL教材『聴解：日本の生活「僕たちの日常生活」』を開発し、韓国人日本語学習者の特別に設けられたクラスにおいて、実践及び評価(事前・事後テストによる効果測定、印象評定調査)を行った結果、総合的に高い評価が得られた。

以上の研究では、教材開発後、試験的に教材の有効性を検討するために、特別に設けられたクラスにおいて行われたもので、予備評価的な観点では研究の意義があったとはいえ、実際の教育現場での有効性をいえるにはまだ更なる検討の必要がある。つまり、特別クラスにおいて自律的な学習方法による短時間(5日間)の実践の結果であったため、より現実的で有効利用のための議論を深めるためには、教育現場における実践及び評価が必要であると考えられた。

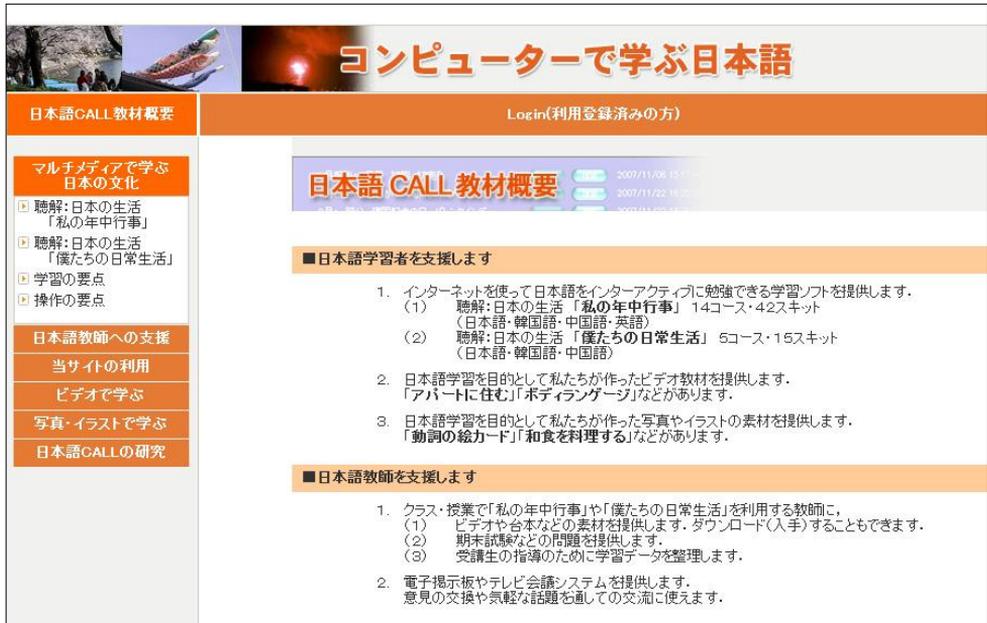
本稿では、教材及び授業の概要について述べ、教材利用とその結果を通して、日本語CALL教材の教育現場における実践例を示すとともに、総合的な評価を通して、教育現場における教材利用の可能性を明らかにすることを目的とする。

2. 教材及び授業の概要

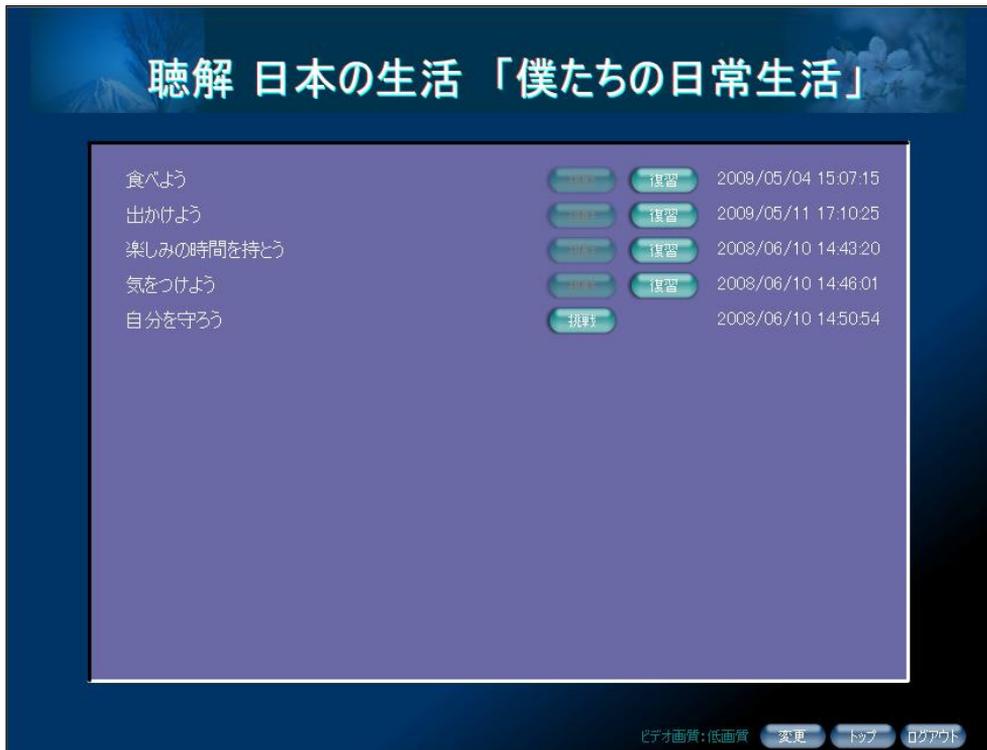
2.1 教材の概要

本研究で使用する教材は、日本語学習用ポータルサイトである「コンピューターで学ぶ日本語」〈図 1〉の「マルチメディアで学ぶ日本の文化」にある日本語CALL教材『聴解：日本の生活「僕たちの日常生活」』である。本教材は、聴解練習を第 1 目的とし、言語的・文化的なことを知識として学習することを第 2 の目的としており、学習目標(文化(事情)・聴解)としての日本の文化である「日常生活」をトピックとして、学習機能の「聞く」練習ができる「聴解」教材として開発された。

学習レベルは、トピック内容が日本の社会・文化に関わる内容であるとともに、くだけた会話文を用いているため、中上級レベルを前提に開発した。実際に全 15 レッソンの台本(会話文)を「リーディングチュウ太」(川村・北村, 2001)を用いてレベル判定を行った結果、中上級以上であると判断された(尹他 2007a)。



< 図 1 > ポータルサイトのメイン画面



< 図 2 > 教材のメイン画面

食べよう

進捗表 答え方

				
		ファミレスで何を食べる？	成人式の後は飲み会で	僕の家で鍋料理を
ステップ1	ことばを並べる			
ステップ2	答えを探す			
	会話を完成する			
	知識を広げよう			
ステップ3	要約文を完成する			
	会話文を確認する			
	答えを選ぶ			

 をクリックして復習スタート！

おわる

＜図 3＞コース 1 の画面例

＜表 1＞各コースのレッスンのテーマ

No	コース名	レッスン 1 のテーマ	レッスン 2 のテーマ	レッスン 3 のテーマ
1	食べよう	ファミレスで何を食べる？	成人式の後は飲み会で	僕の家で鍋料理を
2	出かけよう	祭りの屋台に何がある？	温泉に行って何を？	旅行には情報が大切
3	楽しみの時間を持とう	マンガは子どもだけのもの？	間食は要注意	二次会はカラオケ？
4	気をつけよう	火事の際はあわてずに	怪我をしないように	風邪かな？
5	自分を守ろう	地震の備えは？	台風って怖いね	交通事故に気をつけて

＜表 1＞のように全 5 コースの 15 レッスンで、「コンピューターで学ぶ日本語」というポータルサイトで掲載されており、簡単な利用者登録を通して無料で利用できる。(URL :

<http://www.jcall.j-tm.net>)

「三ラウンド制の指導理論」に基づき、一つのレッスンを三つのステップに分け、同一内容を断続的に学習する分散学習(Spaced Learning)が取り入れられている。またトップダウンとボトムアップの両方法を意識し、ステップ1は「おおまかな理解」、ステップ2は「詳細な理解」、ステップ3は「応用的・総合的な学習」ができるように構成されており、中上級日本語学習者を対象とした教材である。詳しいことは、尹他(2007a)を参照されたい。

2.2 授業の概要

授業は、韓国の南ソウル大学校の日本語科1年生の「日本語言語実習1」という授業(4クラス・15週・週3時間)において、合計80名の受講生を対象に行われた。本教材は、前述したように中上級レベルの教材であるが、本授業において数名の入門レベルの受講生はいたものの、2/3以上の受講生が日本語能力試験3級以上をもっており、教師は本教材の授業利用に差し支えがないと判断した。また、最初の授業で受講生に教材を紹介し、2/3以上の受講生の教材利用の希望を確認したし、数名の入門レベルの受講生においても教材の有効性と興味誘発性を意識し、希望を示したので、本教材を利用して授業を行うことになった。

授業では、主に「みんなの日本語1」と本日本語CALL教材を併用して授業を行い、教材の有効性を検討するために、教材利用前と利用後にそれぞれ事前テストと事後テストを行った(表2)。

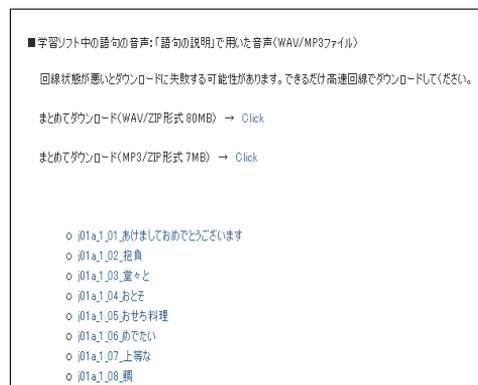
授業の方法としては、まず授業の前に、受講生は各自その日の授業で勉強する部分を学習してくるよう指示する。授業では、教師が本教材の「教師支援システム」(尹他2007b)から「絵素材」<図4>「動画素材」<図5>「音声素材」<図6>「文字素材」<図7>をダウンロードできるようになっているため、教師はこのような素材を見せながら、質問を受けたり、補足説明を行ったりし、教材だけでは勉強できない日本語のみならず文化的な内容について議論し、理解を深めてもらうことができ、CALL教材がもつ自律学習の限界を補った。また、本教材は「教師支援システム」<図8>をもっており、受講生の学習状況(進度・タスクの得点・映像の視聴回数など)が把握できるようになっているため、教師は毎回受講生の学習状況を確認し、授業で受講生の学習を促した。

<表 2> 授業日程

週	授業内容	週	授業内容
1週	オリエンテーション 『みんなの日本語』	9週	『みんなの日本語』 『CALL教材』コース 1
2週	『みんなの日本語』	10週	『みんなの日本語』 『CALL教材』コース 2
3週	『みんなの日本語』 『小学校 1 年生の漢字』	11週	『みんなの日本語』 『CALL教材』コース 2
4週	『みんなの日本語』 『小学校 1 年生の漢字』	12週	『みんなの日本語』 『CALL教材』コース 3
5週	『みんなの日本語』 CALL教材の授業利用に関する 説明	13週	『CALL教材』コース 4
6週	『みんなの日本語』 CALL教材の事前テスト	14週	『CALL教材』コース 5
7週	『みんなの日本語』 『CALL教材』コース 1	15週	CALL教材の事後テスト
8週	『みんなの日本語』 『CALL教材』コース 1		



<図 4> 絵素材



<図 5> 音声素材

元日	高	標	低
初詣	高	標	低
初笑い	高	標	低
七草がゆ	高	標	低
鏡開き	高	標	低
成人の日	高	標	低
節分	高	標	低
建国記念の日	高	標	低
バレンタインデー	高	標	低
ひな祭り	高	標	低
春分の日	高	標	低
年度末	高	標	低

<図 6> 動画素材

元日 初詣 初笑い	Word	PDF
七草がゆ 鏡開き 成人の日	Word	PDF
節分 建国記念の日 バレンタインデー	Word	PDF
ひな祭り 春分の日 年度末	Word	PDF
エイブルフル お花見 ゴールデンウィーク	Word	PDF
憲法記念日 子供の日 母の日	Word	PDF
お釈迦 梅雨 父の日	Word	PDF
七夕 海の日 海水浴	Word	PDF
暑中見舞い お盆 花火大会	Word	PDF
敬老の日 お月見 秋分の日	Word	PDF
お宮参り 体育の日 お祭り	Word	PDF
文化の日 七五三 おみこ参り	Word	PDF
忘年会 お歳暮 天皇誕生日	Word	PDF
クリスマス お正月の準備 大晦日	Word	PDF

<図 7> 文字素材

●学習履歴管理/学習者別のデータ/コース別のデータ

利用者選択: (NSU-nsu) 000011

UID:000011 2009/07/03 23:49:12

学習情報						
コース	c01	c02	c03	c04	c05	total
学習時間	6:38:51	4:34:44	2:58:56	4:9:15	4:11:34	22:33:20
コース利用回数	124	105	101	116	117	563
完了タスク数	43	44	44	44	44	219

ボタンクリック回数						
コース	c01	c02	c03	c04	c05	total
韓国語ボタン	45	46	32	33	23	179
中国語ボタン	1	3	1	1	0	6
日本語ボタン	31	33	26	28	7	125
通称表ボタン	5	0	1	1	0	7
説明ボタン	3	0	0	0	0	3
語句説明ボタン	17	5	3	2	1	28
書くボタン	141	141	78	235	172	767
ひらがなボタン	19	16	20	20	26	101
もどるボタン	5	0	1	7	6	19

タスク別の得点								
コース	c01	c02	c03	c04	c05	total	AV(EC)	AV
ことばを並べる	68	34	39	40	63	245	49 (5)	49
会話を完成する	94	96	100	86	97	473	95 (5)	95
答えを選ぶ	40	60	80	80	80	340	68 (5)	68

<図 8> 教師支援システムの画面例

3. 授業利用における調査と結果

3.1 事前・事後テスト

日本語能力の向上を聴解力と語彙力の2側面から測るために、学習開始時に事前テストとして「聴解テスト」と「語彙テスト（音声・ひらがな・意味）の2種類を行い、また学習終了時にも事後テストとして同様のテストを行った。事前・事後テストの得点を比較することにより、学習者の日本語能力の向上を検討した。

(1) 聴解テスト

聴解テストでは、事前と事後のテスト問題が重ならないようにして出題した。事前テストの

問題はコース 5 のレッスン 2 からレッスン 3 まで、事後テストはコース 1 のレッスン 2 からレッスン 3 までの会話文を用いて、多肢選択の問題とした。

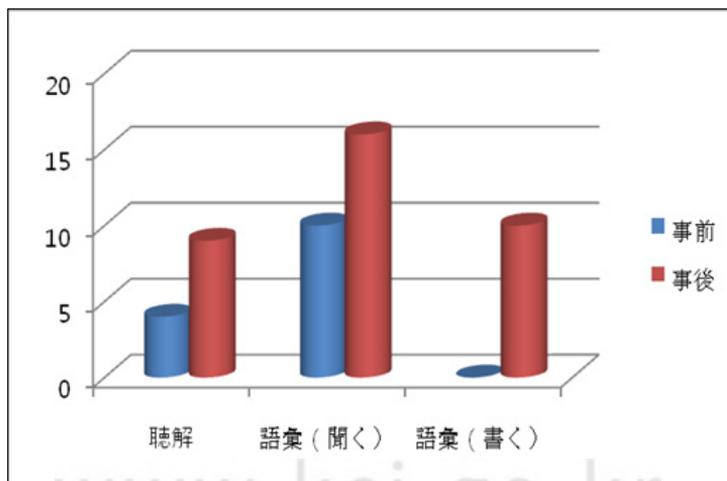
(2) 語彙テスト

語彙テストでは、3 種類のテストを用意した。一つ目は音声による語彙ディクテーションテスト（以下、「語彙（聞く）」と略す）と、二つ目は漢字のふりがなと意味を書くテスト（以下、「語彙（書く）」と略す）の 2 種類からなっている。

それぞれの 2 種類のテストは、各コースから漢字で表記される単語を抽出し、テスト項目とした。「語彙（聞く）」は、語彙の音声録音された CD を聞かせ、ひらがなで書いてもらうよう指示した。「語彙（書く）」では、予め作った問題用紙を用い、単語の読み方をひらがなで記述させ、さらに単語の意味を韓国語で記述させた。

各テストにおいて、受講生の 70 名（80 名のうち 10 名は欠損値）は、事前・事後とで成績が著しく上がったことが、<図 5> でわかる。また、事前・事後テストの得点間で t 検定を行ったところ、聴解テストでは $t(69)=21.09$, $p<.001$ ）、語彙（聞く）では $t(69)=17.88$, $p<.001$ ）、語彙（書く）では $t(69)=11.78$, $p<.001$ ）であった。つまり、各テストとも 0.1% の水準で有意であったことであり、全体的に学習能力が向上したことになる。

以上の結果から聴解と「語彙（聞く）」に比べ、「語彙（書く）」において著しい上昇量を見せたことがわかる。これは、聴解は多肢選択の問題であるため、分からなくても番号をつけ、正解になる可能性があり、また語彙（聞く）はディクテーションだったので、ひらがなさえ分かっていたら、聞こえてくる単語をある程度は書ける。しかし、語彙（書く）は、漢字のふりがなと意味を書く問題となっており、分からない問題は正解にはつながらないため、聴解と「語彙（聞く）」に比べ、教材利用前の語彙（書く）テストは相対的に難しかっただろう。



<図 9> 事前・事後テストの結果

以上のように、事前・事後テストを通して、全体的に学習能力が向上したとはいえるが、『みんなの日本語』とCALL教材を利用した結果であり、純粋なCALL利用の結果とは言えないだろう。さらに、実験群（CALLを利用するクラス）と統制群（CALLを利用しないクラス）による比較を通してこそ、本来のCALL教材の有効性が明らかになれるだろう。しかし、本研究は以上の課題を遂行する前段階としての意味で、教育現場におけるCALL利用の可能性は明らかになったと言えるし、CALL教材をうまく利用した授業の実践例を提示できた点に意味がある。下記の受講生の意見を通してその可能性はさらに明らかになる。

3.2 受講生の意見

本授業では、教師と受講生間の意見交換や資料提供などを行うために、韓国の某ポータルサイトに開設されているミニホームページ(http://club.cyworld.com/club/main/club_main.asp?club_id=53160782)を用い、掲示板を通じて、受講生の意見や感想を聞くことができた。

このような手法を用いた理由として、限られた時間内に受講生の意見・感想を問う印象評定調査は、意見・感想を考える時間が少なく、なお綿密な検討も難しいため、簡単に答えてしまう傾向があると考え、本研究では、学習者に十分な時間を与え、より綿密に意見・感想が記述できるように掲示板による調査を行った。

本調査を通して、本教材及び授業に対する受講生の主観的な評価が可能となり、今後の課題を検討する際の資料として使えるため、以下においては、日本語CALL教材の利用に関係する受講生の意見及び感想を肯定的と否定的別にあげ、今後の課題を検討する。



<图 1 0 > 掲示板的画面例

〈表 3〉のように、1 では、教師が『リーディングチュウ太』（川村・北村 2001）を利用し、CALL教材にある単語を級別に分けて提示したため、主に日本語能力試験を準備する受講生にとっては、この教材を使えば、各自のレベルに合う日本語能力試験の単語が学習でき、合格へとつながると確信できるため、大いに役に立ったようである。また、2・3・6 では、他教材では、実際に日本で使われている会話文はそれほど多いとはいえず、本教材がもつ特徴として、日本の現地の映像を見せ、日本人の実生活で話すくだけた言い方を会話文として採用しているため、実生活に必要な会話が勉強できるという点が評価されたことになる。4と5では、このCALL教材を使えば、使わない学習者より遥かに日本語能力が上達できる例を端的に示しており、本教材の有効性が如実に現れている。もちろん、更なる成績向上率の分析を行う必要はあるが、可能性が期待できる感想であることに間違いない。

〈表 3〉肯定的な意見及び感想

No	肯定的な意見及び感想
1	教材の語彙と漢字をJLPTの級数別で整理した資料は、何級の単語を勉強するのかがわかって良かったし、分かっている単語のレベルも確認することができてよかった。
2	『みんなの日本語』は、初心者用で会話の部分がちょっと充分でない。『みんなの日本語』は、少し固いイメージの簡単な会話になっているが、CALL教材は本当に実生活に必要な会話文を学ぶことができるし、日本文化に対しても勉強することができる教材なので本当に良かった。
3	教材に出る日本文化に関わる単語を、辞書を引いて勉強することと違って、現地の写真と動画を通じて具体的に勉強できることが大きな長所だった。また会話では、会話の練習だけではなく、実生活でその単語をどんな状況で使ったらいいかということがわかって良かった。
4	CALL教材は、コンピュータを通じてだけでなく、MP3でいつでも聞きながら勉強することができた。 特に、日本語のイントネーションに関して勉強することができた。 日本語を勉強しながら一番難しい聴解と漢字の勉強に役に立ち、一石二鳥の成果がでた。特に長所は日本語が早く上達できたという点だ。
5	一生懸命にCALL教材を利用したおかげで、利用しなかった学生に比べて、日本語能力がたくさん伸びた。
6	以前は難しかった日本人友達との会話が、CALL教材を勉強してから、教材で勉強した会話文を使ってみながら、より上手に話せるようになった。

* 以上は、学生が韓国語で書いたものを筆者が日本語で訳したものである。

〈表4〉のように、1・2・3では、入門レベルの受講生には難しい教材であったことが共通点としていえるため、学習者のレベルに合わせ、授業の進度及び分量をうまくコントロールする必要がある、今度は中上級レベルの学習者を対象にした調査の必要性も浮かび上がる。また、4では、受講生らが、教材の会話（音声）をMP3に変換し、ポータブルMP3機器で聞いていたが、低容量のMP3に変換作業を行うと、画質と音質が落ちるので、教材に関わる問題ではないと思われる。しかし、今後教材の画質と音質に関する満足度を調べる必要がある。

〈表4〉否定的な意見及び感想

No	否定的な意見及び感想
1	CALL教材は、一生懸命に勉強する人にとっては役に立つが、日本語を初めて接した人には困難な点があった。
2	CALL教材は、とても難しく、日本語がよく分からない私にとっては難しいという考えしかなかった。正直日本語を6ヶ月しか勉強していない私には難しかった。
3	授業の進度が早く、しかも分量が多かったため、大変だった。
4	MP3では、はっきり聞こえない部分があったので、教材の画質及び音質を改善するべきだ。

* 以上は、学生が韓国語で書いたものを筆者が日本語で訳したものである。

4. 総合的考察

本研究では、日本語CALL教材『聴解：日本の生活「僕たちの日常生活」』の教育現場における実践及び評価が必要であることから、韓国の南ソウル大学の日本語科の授業において教材を利用し、実践例を示すとともに、事前・事後テストと受講生の意見及び感想を通して全体的に有効利用の可能性が高い教材であることを明らかにした。

本研究の意義は、以下のとおりである。

(1) 教育現場における日本語CALL教材の実践例を提示し、CALL利用の参考資料を提供できた。

(2) 教育現場における日本語CALL教材の利用においても、有効利用の可能性が明らかになり、最終的には水町他(2003)と水町他(2006a)水町他(2006b)と尹他(2007)について、「三ラウンド制の指導理論」に基づく日本語CALL教材の有効利用の可能性をより一層裏付けることができた。

今後の課題としては、以下のことが考えられる。

(1) 教材のレベルに合う中上級レベルの学習者を対象にした調査をする必要がある。

(2) CALL教材のみを利用した授業実践を通してCALL教材のみの有効性を明らかに

する。

(3) 実験群と統制群による調査を通し、CALL教材を利用していない学習者に比べ、CALL教材を利用した学習者の成績の伸びを明らかにする。

【参考文献】

- 川村よし子・北村達也(2001)「インターネットを活用した読解教材バンクの構築」『世界の日本語教育』第6号、pp.241-255.
- 水町伊佐男・多和田眞一郎・山中恵美(2002)「日本語CALL聴解練習用教材開発の検討」『広島大学日本語教育研究』12、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座、pp.17-23.
- 水町伊佐男・桑原陽子・福田倫子・森千枝見(2004)「インターネット利用の日本語CALL聴解練習教材「私の年中行事」の作成」(2004年日本語教育国際研究大会予稿集(発表2))、pp.64-69.
- 水町伊佐男・多和田眞一郎・茅本百合子・桑原陽子・山中恵美(2003)「日本語CALL聴解練習用コースウェアの開発と評価」『日本教育工学会論文誌』27(3)、pp.237-346.
- 水町伊佐男・尹楨勳(2006a)「e-Learningのためのマルチメディア日本語教材と教師支援」『広島大学日本語教育研究』16、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座、pp.41-48.
- 水町伊佐男・尹楨勳・尹鎬淑・安秉杰(2006b)「ネットワーク型CALL教材を利用した日本語授業の実践—韓国の大学生によるクラス利用を中心に—」『広島大学日本語教育研究』16、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座、pp.33-40.
- 竹蓋幸生(1997)『英語教育の科学』、アルク
- 尹楨勳(2007)「韓国の日本語教育におけるCALL利用に関する研究」(広島大学大学院教育学研究科に提出された学位論文)
- 尹楨勳・水町伊佐男・安秉杰(2007a)「韓国人日本語学習者によるネットワーク型CALL教材の評価」『広島大学大学院教育学研究科紀要(第2部)』56、広島大学大学院教育学研究科、pp.303-309.
- 尹楨勳・水町伊佐男・張超(2007b)「日本語e-Learning実践のための教師支援システムの開発」『広島大学日本語教育研究』17、広島大学教育学部日本語教育学講座、pp.99-106.

【資料】

*** 事前 · 事後テストの問題形式**

Dictation 테스트

성명 _____

지금부터 Dictation 테스트를 실시하겠습니다. 지금부터 들으실 CD에는 각 단어가 2회 녹음되어 있습니다. 또한 각각의 문제가 들리기 전에 벨소리가 울립니다. 단어를 듣고 다음의 해당란에 히라가나로 기입해 주세요.

1	2	3	4	5

6	7	8	9	10

11	12	13	14	15

16	17	18	19	20

어휘 테스트

성명 _____

각각의 단어에 대해서 기입해 주세요.

- ① 「히라가나」에는 해당 단어의 후리가나를 기입해 주세요.
 ② 「의미」에는 해당 단어의 의미를 한글로 간단히 적어 주세요.

번호	단어	①히라가나	②의미
1	雨戸		
2	春菊		
3	居酒屋		
4	茶碗蒸し		
5	菜味		
6	屋台		
7	綿菓子		
8	露天風呂		
9	浴衣		
10	畳		
11	鼻水		
12	風邪		
13	花粉症		
14	打撲		
15	団扇		
16	骨折		
17	座敷		
18	応急手当		
19	演歌		
20	打ち上げ		

要 旨

尹他(2007a)では、数年間に渡る実践によってその効果が実証された英語教育の「三ラウンド制の指導理論」(竹蓋, 1997)に基づいて開発された日本語CALL教材「聴解; 日本の生活「僕たちの日常生活」」を利用し、特別クラスにおいて実践を行い、有益であることが明らかになった。しかし、より現実的な利用のためには、教育現場における実践及び評価が必要であると考えられた。

本稿では、韓国の南ソウル大学校の日本語科の授業において教材を利用し、その結果を通して、日本語CALL教材の教育現場における実践例を示すとともに、総合的な評価を通して、教育現場における教材利用の可能性を明らかにすることを目的とした。その結果、実践例を示すとともに、事前・事後テストと受講生の意見及び感想を通して、全体的に有効利用の可能な教材であることが明らかになった。

本研究の意義は、(1) 教育現場における日本語CALL教材の実践例を提示し、CALL利用の参考資料を提供できたこと、(2) 教育現場における日本語CALL教材の利用においても、有効利用の可能性が明らかになり、最終的には水町他(2003)と水町他(2006a)水町他(2006b)と尹他(2007)について、「三ラウンド制の指導理論」に基づく日本語CALL教材の有効利用の可能性を裏付けることができたことである。また、今後の課題としては、(1) 教材のレベルに合う中上級レベルの学習者を対象にした調査をする必要があること、(2) CALL教材のみを利用した授業実践を通してCALL教材のみの有効性を明らかにすること、(3) 実験群と統制群による調査を通し、CALL教材を利用していない学習者に比べ、CALL教材を利用した学習者の成績の伸びを明らかにすることが考えられた。

キーワード：日本語教育、CALL、授業実践、三ラウンド制の指導理論、評価、
韓国人日本語学習者

투 고 : 2011. 11. 30
1차 심사 : 2011. 12. 17
2차 심사 : 2012. 1. 7